

ダニエル書 - 第七十六番

予言の封印を解く：1856年の光の拒絶とその結果

Jeff Pippenger

2024-02-09

1856年に「七つの時」の光の封印が解かれ、1863年までにその光は退けられた。ユダから来た預言者はその光を邪悪な王ヤロブアムにもたらしたが、ヤロブアムはその光を退けた。イザヤは同じ光を邪悪な王アハズにもたらしたが、彼もその光を退けた。シロアの池に関わるその光を拒んだため、ヤロブアム（北王国）とアハズ（南王国）の両王国は、それぞれ紀元前723年と紀元前677年に北から来た王によって奴隷とされた。

アロンの反逆の場面におけるモーセ、アハズと共にあったイザヤ、そして他の諸王と共にあったエレミヤは、いずれもミラー運動の歴史における忠実な者たちを表しており、その忠実な者たちは皆、終わりの日の反逆における光の使者を象徴していた。1863年の「最初の」終わりの日の危機と、黙示録第十一章の「大地震」（間もなく来る日曜法）に関する「最後の」終わりの日の危機は、これらすべての預言の系列によって表されている。ユダから来た預言者は、自らの責務から退転した預言者を表しており、ついには背教的プロテスタント主義と同じ墓に葬られる。彼の死と葬りは、彼がベテルの偽りの預言者の食事に与えることを選んだことの結果であった。

日曜法において（アッシリアの王である）教皇権に打ち負かされるという裁きは、ヤロブアムとアハズの北王国と南王国の離散によって型示されたものであり、ユダの預言者の運命と一致する。というのも、彼は「獅子」と「ろば」の間で死んだからである。「獅子」はバビロンの象徴であり、終わりの時代においてはそれは教皇権である。

彼はパンを食べ、飲み終わると、彼のためにろばに鞍を置いた。すなわち、彼が連れ戻した預言者のためであった。彼が去って行くと、道で一頭の獅子が彼に出会い、彼を殺した。彼のなきがらは道に投げ出され、ろばはそのそばに立ち、獅子もまたそのなきがらのそばに立っていた。すると、人々が通りかかり、道に投げ出されたなきがらと、そのなきがらのそばに立っている獅子を見た。彼らは来て、年老いた預言者の住んでいる町でそのことを告げた。彼を道から連れ戻した預言者がそれを聞くと、言った。「それは神の人だ。主の言葉に背いたゆえに、主は彼を獅子の手に渡された。獅子は彼を引き裂き、殺した。これは主が彼に語られた言葉どおりである。」彼は息子たちに言った。「私のためにろばに鞍を置きなさい。」彼らはろばに鞍を置いた。彼は行って、道に投げ出されている彼のなきがらと、そのなきがらのそばに立っているろばと獅子とを見つけた。獅子はそのなきがらを食べもせず、ろばを引き裂きもしなかった。預言者は神の人のなきがらを拾い上げ、それをろばに載せて連れ帰った。年老いた預言者は町に帰り、彼を悼み、葬った。彼は自分の墓にそのなきがらを納め、人々は彼のために嘆いて「ああ、わが兄弟よ！」と言った。彼を葬った後、彼は息子たちに言った。「私が死んだなら、神の人が葬られている墓に私を葬ってくれ。私の骨を彼の骨のかたわらに置いてくれ。ベテルの祭壇に対して、またサマリアの町々にある高き所のすべての家々に対して、彼が主の言葉によって叫んだ言葉は、必ず成就するからである。」列王記上 13:11-32。

ユダの預言者は二つの象徴の間で死んだ。獅子はバビロンの象徴であり、終末の時代における現代のバビロンは北の王で、ダニエル書11章45節で助ける者もなくその終わりに至る。彼の権威のしるしは太陽礼拝であり、それは第四の忌むべきことで、エゼキエル書8章ではラオデキア的アドベンティズムの第四世代が太陽に向かって拝んでいる姿として描かれている。ミラーの夢では、宝石が散らされ覆い隠されただけでなく、聖書を表していた宝石箱そのものも引き裂かれてしまったことが示された。

アドベンチズムの第三世代において、いわゆる聖書の現代訳の使用の導入が、アドベンチズムの指導部によって推進された。そうしたいわゆる現代訳は、罪の人の神学者たちおよび背教したプロテスタント主義によって推奨されている、改ざんされた写本群に由来している。ミラーの小箱は、改ざんされていない写本群から翻訳されたキング・ジェームズ訳であった。

ラオデキア的アドベンティズムが第四世代に至るころには、その教会はローマ教会とその娘たちからなる連合体である世界教会協議会に加盟していた。アドベンティズムは何年ものあいだ、彼らの眠っている群れのために、自分たちは世界教会協議会では単なる「オブザーバー」にすぎないと主張してきたが、この邪悪な連合の細則が、「オブザーバー」という資格が完全な議決権を持つ正会員を意味することを明らかにした！

彼らは第四世代の時に「罪の人」に金メダルを二度授与した。少なくともそのうちの一枚には、カトリックにおけるキリスト再臨の理解が刻印されており、再臨の際にイエスが足を地上に置く姿が描かれていた。また、キリストの背後にはカトリックの太陽の後光があり、第四戒のカトリックによる要約、すなわち単に「安息日を覚えよ」と記されていた。裁判手続（法的な宣言の場）において、総会の会長は証言で、セブンスデー・アドベント教会はかつて教皇制を反キリストと信じていたが、自らの教会はその信念をとるの昔に「歴史のごみ箱」に放り込んだのだと明言した。

第四の忌むべきこと（世代）とは、エルサレムの教会の二十五人の指導者が太陽を拝む場面である。段階的な忌むべき行為は、入口に据えられた妬みの像から始まり、それがその始まりを示していた。ユダからの預言者は結局、背教的プロテスタント主義とともに葬られ、獅子（バビロン）が彼を殺す。彼が背教的プロテスタント主義の方法論に戻ってしまったからであり、そのため、異象を確立するのがローマであることを認識できない。そして、罪の人の象徴によって異象が確立されていないところでは、最終的に罪の人の側に立つことになる。

「言葉についての理解が混乱し、反キリストの意味を見抜けない者は、必ずや自らを反キリストの側に置くことになる。」 クレス・コレクション、105。

ユダの預言者は、彼を「兄弟」と呼んだベテルの偽りの預言者と共に葬られ、二つの象徴の間で死んでいるのが見つかった。「獅子」は、彼が反キリストを理解できなかったことを表し、「ロバ」はイスラムの象徴である。ラオデキア的アドベンチズムは、2001年9月11日に関して沈黙を守ったことによって、第三のわざわいにおけるイスラムという主題こそが真夜中の叫び、後の雨のメッセージであることを認識していないことをすでに示している。後の雨のメッセージを認識しないことは、死である！後の雨は、黙示録18章の力ある天使が下り、ニューヨーク市の大きな建物が倒れた2001年9月11日に始まった。

「雨」はメッセージであり、そのメッセージを受けるには、それを認識しなければならない。

「私たちは後の雨を待つはなりません。後の雨は、私たちの上に降る恵みの露と雨を認め、受け入れるすべての者の上に、今まさに注がれようとしているのです。私たちが光のかけらを拾い集め、私たちが神に信頼することを喜ばれる神の確かな慈しみを大切にすれば、すべての約束は成就します。[イザヤ書61章11節引用.]
全地は神の栄光で満たされるのです。」セブンスデー・アドベンチスト聖書注解
第7巻、984ページ。

2001年9月11日に何が起きたかは「全地」が知っているが、そこから始まり、やがて神の栄光によって全地を照らすメッセージを受け取るためには、そのメッセージが認識されなければならない。「recognize」という語は、「それに関する知識を、その知識を公言するかどうかにかかわらず、想起すること、または取り戻すこと」を意味する。私たちは、以前にその人を見たことがある、あるいはかつて知っていたことを思い出すとき、遠くにいる人を認識する。私たちはその人の顔立ちや声を認識する。ウェブスターの1828年版辞書。

2001年9月11日に到来した後の雨のメッセージをラオデキアのアドベンチストが認識できるのは、彼らが過去に同じ神の力の現れを見ていたことを認めるときだけである。1840年8月11日、イスラムの第二の災いの預言が成就したとき、黙示録十章の力ある天使が下って来た。その歴史は、2001年9月11日にイスラムの第三の災いの預言が成就し、黙示録十八章の力ある天使が下って来たとき、完全に繰り返された。そして、第三の災いとしてのイスラムを認識しないことは、野生のアラビアのろばに運び去られて、現代のバビロンの獅子によってもたらされる死に至ることを意味する。

封印された書を読むことができないエフライムの酔いどれたちは、その認識が「行に行を重ねる」という後の雨の方法論に基づいているため、ミラライトの歴史の繰り返しを見ることができない。ミラライトの歴史における神の力の現れが終わりの時代に繰り返されるという概念は、背教的なプロテスタンティズムとカトリックの方法論では支えられない。

「第三の天使のメッセージの宣言に加わる天使は、その栄光によって全地を明るく照らすであろう。ここには、世界的規模で、しかもかつてない力をもつ働きが予告されている。1840年から1844年にかけての再臨運動は、神の力の栄光ある顕現であった。第一の天使のメッセージは世界中のあらゆる宣教地に運ばれ、いくつかの国々では、16世紀の宗教改革以来どの地でも見られなかったほどの強い宗教的関心が呼び起こされた。しかし、第三の天使の最後の警告のもとの力強い運動は、これらを上回るものとなる。」『大争闘』611頁。

現代のイスラエルの盲目の指導者たちは、その方法論によって、終わりの日に、かつての時代と同じように神の力の顕現が繰り返されるという真理を退けることを余儀なくされている。

ここで私たちは、教会-主の聖所-が、神の怒りの打撃を最初に受けたことを見る。長老たち、すなわち神から大いなる光を与えられ、民の霊的利益の守護者として立って

きた者たちが、その信任を裏切っていた。彼らは、昔のように奇跡や神の力の顕著な現れを求める必要はない、という立場を取った。時代は変わったのだ。この言葉が彼らの不信を強め、彼らは言う。「主は善も行わず、また悪もしない」。主はあまりにもあわれみ深く、ご自分の民に裁きをもって臨まれることはない、と。こうして、「平安と安全だ」という叫びは、二度とラッパのように声を上げて神の民にその背きとヤコブの家にその罪を示すことのない人々から発せられる。吠えようとしないこの物言わぬ犬たちこそ、侮られた神の正しい復讐を受ける者である。男たちも乙女たちも幼子たちも、皆ともに滅びる。『証言』第5巻、211。

エルサレムの無学な者たちを支配している学識者たちは、ラオデキア的な盲目のゆえに、後の雨を見分けることができない。というのも、彼らは歪められた聖書解釈の方法論を用いているだけでなく、その誤った論理が導く結論のために、昔の時代にあったような神の力の将来のいかなる顕現も否定する立場に身を置くからである。しかし、マラキ書3章は、契約の使者がレビの子らを清めるとき、供え物が昔の日のようになると示している。

まことの証人は宣言する。「わたしはあなたの行いを知っている。」「悔い改めて、初めの行いをせよ。」これは真の試金石であり、神の霊があなたの心に働いて、その愛を吹き込んでいることの証拠である。「悔い改めないなら、わたしはすぐあなたのところへ行き、あなたの燭台をその置き所から取りのける。」教会は、露と雨と日光を受け、本来なら豊かな実を結ぶはずであるのに、神が探ってご覧になると、そこには葉しか見出されない、不毛の木のようなものである。わたしたちの教会にとって何と厳粛なことだろうか！実に、一人ひとりにとっても厳粛である！神の忍耐と寛容は驚くべきものである。しかし、『悔い改めなければ』それも尽きるだろう。彼らが「私は富み、豊かになって、何の乏しいところもない」と言っている間にも、教会も、私たちの諸機関も、弱さから弱さへ、冷たい形式主義から死せる状態へと落ちていく。まことの証人は言う。「そしてあなたは、自分が惨めで、衰れで、貧しく、盲目で、裸であることを知らない。」彼らは自分の状態をはっきり見る日が来るのだろうか。

教会において、神の力の驚くべき現れがあるだろう。しかし、主の前にへりくだらず、告白と悔い改めによって心の戸を開かなかった者たちには、それは働かない。神の栄光によって地を照らすその力の現れにおいて、彼らは、自分たちの盲目のゆえに危険だと見なす何か、恐れを呼び起こす何かとしか見ず、それに抗おうとして身構えるだろう。主が彼らの考えや期待どおりに働かれないので、彼らはその働きに反対する。「なぜ」と彼らは言う。「私たちはこんなにも多くの年月この働きに携わってきたのに、どうして神の御霊を知らないはずがあるだろうか。」-彼らが神からのメッセージの警告や懇願に応答せず、執拗に「私は富んでおり、財が増し、何も必要としていない」と言い続けてきたからである。才能や長年の経験があっても、人は義の太陽の明るい光のもとに自らを置き、聖霊の賜物によって召され、選ばれ、備えられないかぎり、光の器とはならない。聖なる事柄を取り扱う者たちが、神の力強い御手のもとにへりくだるとき、主は彼らを高く引き上げられる。主は彼らを識別力ある者、御霊の恵みに富む者とされる。彼らの強固で自己中心的な性質、頑なさは、世の光から放たれる光の中で明らかにされる。「悔い改めないなら、わたしはすぐあなたのところへ行き、あなたの燭台をその置き所から取りのけよう。」心を尽くして主を求めるなら、主はあなたに見いだされる。Review and Herald, 1890年12月23日

ユダの預言者の死は、預言史の幻視を確立する預言的象徴である現代のバビロンの「獅子」と、「ろば」の双方によって表されている。聖書におけるイスラム教への最初の言及は、イシュマエルが「野生の人」として示されるときである。

彼は荒々しい人となり、彼の手はすべての人に敵対し、すべての人の手は彼に敵対する。彼はすべての兄弟たちの面前に住むであろう。創世記 16:12.

聖書における「初出の法則」は、その象徴のあらゆる特性がその初出箇所の中に含まれていることを示している。というのも、神の御言葉は種であり、種には植物全体が実を結ぶために必要なすべてのDNAが備わっているからである。「野人」と訳されている語は、「アラビアの野ろば」を指す語である。真理の書である聖書において、「ろば」はイスラム教の象徴の一つである。

エゼキエル書第37章の、死んだ骨に命を与え、それらが強大な軍勢として立ち上がるというメッセージは、第三のわざわいにおけるイスラムのメッセージであり、そのメッセージこそ終わりの時の真夜中の叫びのメッセージである。ホワイト姉妹は、キリストのエルサレムへの凱旋入城が真夜中の叫びのメッセージを表していたと直接教えている。

真夜中の叫びは、聖書による根拠が明確で決定的であったにもかかわらず、議論によって押し進められたものではなかった。それには魂を突き動かす迫力が伴っていた。そこには疑いも、異議もなかった。キリストがエルサレムに凱旋入城された際、祭りを守るために国の至る所から集まっていた人々はオリーブ山に押し寄せ、イエスに付き従う群衆に加わると、その時の靈感に触発され、「主の御名によって来られる方は、祝福されるかな！」[マタイ21:9.]と叫ぶ声をいっそう大きくするのを助けた。同様に、アドベンチストの集會に群がった不信者たち-ある者は好奇心から、ある者はただ嘲るために-も、「見よ、花婿が来られる！」というメッセージに伴う確信させる力を感じたのである。『スピリット・オブ・プロフェシー』第4巻、250ページ。

イエス・キリストの啓示は、終わりの時代に封印が解かれる最後のメッセージであり、そこには第三の災いに当たるイスラムが含まれる。封印が解かれたメッセージそのものであるキリストがエルサレムに入城し、こうして終わりの時代の「真夜中の叫び」を象徴したとき、彼は（そのメッセージは）「ろば」によって運ばれた。キリストの義に関する最後のメッセージはイスラムによって担われる。

イスラムは、昔も今も、そしてこれからも、野生のアラビアノロバに象徴される野人であり、見ようとする者（見たくない者は多いが）なら誰でも、イスラムがいま遂行している戦争が野蛮な狂気であることを容易に「認識」できる。来世で大きな性的報いがあると信じて自殺をいとわないことは、悪魔的な狂気である。イスラムについての最初の言及は、イスラムが野人であると示していた。

イスラムの戦いは、第三の災いにおいて激化する戦争に対抗するため、全人類を結集させる。イスラムは世界統一政府を実現するための預言的な論理であり、さらにグローバリストは、第二次世界大戦後に意図的にユダヤ人をイスラエルの地に戻したのは、イスラムのユダヤ人に対する古来の憎しみを利用して第三次世界大戦を引き起こすためだと教えている。グローバリストは、世界統一政府を実現するには第三次世界大戦が必要だと信じ、何十年にもわたってそう教えてきた。彼ら自身の言葉に表れているグローバリストの

墮落した動機は、聖書におけるイスラムの役割に合致している。

イシュマエルが最初に言及される節において、彼の預言的DNAの中でおそらく最も重大な点は、彼の霊、すなわち「野の人」の霊が、「すべての兄弟たちの面前に住む」という事実である。第三の災いに関与するのは急進的イスラムの一部の宗派だけだという考えは、神の御言葉と一致しない。どの宗教にも少数の悪い者がいて、イスラム教徒の大多数は平和を愛する市民であるという、一般的な政治的に正しいとされる見方は、彼ら自身の聖典とも聖書とも一致しない。

コーランは、アッラーのすべての信徒にとって、全世界をシャリーア法に従わせることが義務であると教えている。そして、創世記におけるイスラムへの最初の言及は、イシュマエルの「野人」の霊がイスラムのすべての信徒に宿ることを示している。コーランは、まだ自分たちの宗教的統治を住民に強制する力を持たない地域に住むときには、カトリックと同様に、品行方正さを装うよう信徒に直接教えている。

ヤロブアムの王国が最初に樹立されたとき、ユダの預言者は彼と対峙した。背教的プロテスタントイズムは1844年に始まったが、至聖所に入り、第七日安息日を含む神の律法を見いだしたミラー派アドベンチズムによって直に対決された。ミラー派アドベンチズムは、エレミヤによって表象されるように、神に立ち返るよう告げられたが、「嘲る者の会衆」へは決して戻ってはならないとも告げられた。ユダの預言者は、来た道を同じように引き返してはならず、またベテルの偽りの預言者の食物を食べたり飲んだりしてはならないと告げられていたが、彼はそうしてしまった。ユダの預言者の死は、ローマ教皇制とイスラムを表す二つの象徴の間に象徴的に置かれた。ラオデキア的アドベンチズムにはその二つの真理が見えない。というのも、1863年に彼らは自らの霊的な目をえぐり出し、アドベンチズムの基礎を贗金と贗の宝石、そして背教的プロテスタントイズムとカトリシズムの方法論によって築くために、ウィリアム・ミラーが用いた宝石と方法論を覆い隠す過程を開始したからである。

「ちり払いの男」は今、彼の床を掃き、宝石を元どおりにしてミラーに渡し、彼のテーブルの上に置かせているが、アドベンチズムは、自分たちこそ1844年に彼の民として起こされた残りの民であるという信念に目がくらんでいる。

「『私たちの父はアブラハムだ』と心の中で言おうなどと思ってはならない。言っておくが、神はこの石ころからでもアブラハムの子らを起こすことができになるのだ。今や斧はすでに木の根元に置かれている。だから、良い実を結ばない木はみな切り倒され、火に投げ込まれる。私は悔い改めのために水であなたがたにバプテスマを授けるが、私の後に来られる方は私よりもはるかに力ある方で、その方の履物を持たせていただく資格も私にはない。その方はあなたがたに聖霊と火によってバプテスマをお授けになる。その方の手には箕があり、徹底して打ち場を清め、小麦は集めて倉に納め、もみ殻は消えることのない火で焼き尽くされる。マタイによる福音書 3:9-12」

悔い改めるかもしれない者たちを除いて、ラオデキア的アドベンチズムは主の口から吐き出されるだろう。ラオデキア的アドベンチズムは、ミラーのメッセージを拒んだかつての契約の民が葬られているのと同じ墓に葬られることになる。というのも、彼らは今や、十四万四千人に関しては、同じくかつての契約の民となっているからである。1863年の反

逆は、ユダから来た預言者によって示されており、彼はまたヨシヤ王に関する予言も残した。

次回の記事でこの研究を続けます。

世と同じようになるのではなく、私たちは世からますます区別された者となっていかなければならない。サタンは教会と結託し、神の真理に逆らう周到な攻勢をこれまでも仕掛けてきたし、これからも続ける。神の民が世に切り込むために行うあらゆる働きは、闇の勢力からの断固たる反対を呼び起こす。敵の最後の大きいなる闘争は、きわめて断固たるものとなる。それは闇の勢力と光の勢力との最後の戦いである。真実な神の子は皆、キリストの側に立って勇敢に戦う。この大きいなる危機の中で、自らを神よりも世の側に寄せる者は、やがて全く世の側に身を置くことになる。みことばの理解に混乱し、反キリストの意味を見抜けない者は、必ず反キリストの側に身を置くことになる。今や、私たちが世に同化している余裕はない。ダニエルは自分に割り当てられた分とその立場に立っている。ダニエルとヨハネの預言は理解されなければならない。これらは互いに解き明かし合い、誰もが理解すべき真理を世に与える。これらの預言は世において証しとされるべきである。この終わりの日々におけるその成就によって、それらは自らを明らかにするだろう。

主は、世の不義のゆえに、まもなく世界を罰せられる。また、彼らに与えられた光と真理を退けたことのゆえに、宗教団体をもまもなく罰せられる。第一、第二、第三天使の使命を結合した大きいなるメッセージを、世界に告げ知らせるべきである。これが私たちの働きの主たる務めとならなければならない。キリストを真に信じる者は、主の律法に公然と従う。安息日は神とその民との間のしるしであり、私たちは安息日を守ることによって、神の律法への順従を目に見える形で示さなければならない。これは、神に選ばれた民と世との区別のしるしとなる。神に忠実であることは大きな意味をもつ。これは健康改革をも含む。すなわち、私たちの食事は質素でなければならず、万事において節制しなければならないということである。食卓にしばしば並ぶ多種類の食品は必要ではなく、むしろ極めて有害である。心身は最良の健康状態に保たれなければならない。神を知り、神を畏れることにおいて訓練された者だけが、責任を担うために選ばれるべきである。長く真理の内にながら、なお義の純粋な原則と悪の原則を区別できず、公義、憐れみ、そして神の愛に関する理解が曇っている者は、責任から解かれるべきである。

神は、ご自分の民が学ぶべき重要な教訓を備えておられる。もしこれらの教訓が以前に学ばれていたなら、神の大義は今日のような状態にはなっていなかっただろう。なすべきことが一つある。牧師や責任ある地位にある人々の不興を買うことを恐れて、真理を差し控えてはならない。私たちの諸機関には、柔和と知恵をもって神の全き御旨を宣べ伝える人々が関わっていなければならない。肉的な安逸と価格のもとで神のご支配を侮った者たちに対して、神の怒りは燃え上がっている。彼らはこの大義の繁栄を危うくしている。

あらゆる偽りの道は欺きであり、それが持続されるなら、ついには滅びを招く。それゆえ、主は偽りの計画を持ち続ける者たちが滅ぼされることをお許しになる。まさに称賛とへつらいの聲が聞こえるその時に、突然の滅びが来る。不忠実のゆえに他の者が受けた叱責を知っていながら、戒めから背を向ける者たちがいる。彼らは二重に罪

ある者である。彼らは主の御心を知りながら、それを行わなかった。彼らの罰は、その罪に応じたものとなる。彼らは主の言葉に耳を傾けようとしなかった。クレス・コレクション、105、106。